

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子ども家庭支援の 心理学 ナンバリング：2203	保育士資格取得のための 必修科目	単位数：2単位 (半期) 講義	担当教員名：加藤達矢 担当形態：単独
系 列	保育の対象の理解に関する科目		
教科目	子ども家庭支援の心理学		
授業の到達目標及びテーマ 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期体験の重要性、各時期の移行、発達課題等について理解する。 2. 家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する。 3. 子育て家庭をめぐる社会の状況と課題を理解し、現代の子どもの精神保健と課題を知る。			
授業の概要 生涯発達についての理解を深め、家族・家庭の意義や現代社会の動向などを学ぶと共に、子どもの心の問題について学習する。			
授業計画 第1回：生涯発達について 第2回：乳幼児期から学童期前期までの発達 第3回：学童期後期 から青年期までの発達 第4回：成人期・老年期までの発達 第5回：家族・家庭の意義と機能 第6回：親子関係・家族関係の理解 第7回：子育ての経験と親としての育ち 第8回：子育て家庭に関する現状と課題 第9回：子育てを取り巻く 社会的状況 第10回：ライフコースと仕事・子育て 第11回：多様な家庭とその理解 第12回：特別な配慮を要する家庭（養育者のメンタルヘルス） 第13回：子どもの生活・生育歴とその影響 第14回：子どもの心の健康にかかわる問題（精神疾患） 第15回：子どもの心の健康にかかわる問題（発達障害、他） 定期試験：筆記		授業時間外の学習 ・授業前に配布資料、参考文献等をもとに学習し、関心のある点、疑問点を整理しておく。疑問点については、調べておく。 ・授業後は配布資料や参考文献等により関心のあるテーマについての理解をさらに深め、学習した内容についてまとめておく。 ・授業前後には、合わせて1時間程度の自主学習を要する。	
授業の方法 講義・グループ演習やワーク。單元ごとの小レポートにコメントを入れて返却する。			
テキスト なし。授業時に適宜プリントを配布する。			
参考書・参考資料等 授業内で紹介する。			
学生に対する評価 授業参画度（20%）、小レポート（30%）、定期試験（50%）、評価はルーブリックに準じる。			
履修上の注意 受講にあたっては、配布資料、参考文献等を参考に事前事後の学習を行い、グループでの演習には積極的に取り組むこと。			
実務経験の有無	有	実務経験	精神科クリニック勤務（臨床心理士、公認心理師）
実務経験を活かした教育内容 精神科クリニック勤務の経験を活かして、実践的な講義を行う。			

卒業必修	保育士必修	幼稚園教諭必修	選択
授業科目名： 子どもの理解と援助 ナンバリング：2204	保育士資格取得のための 必修科目	単位数：1単位 (半期) 演習	担当教員名：金子智栄子 担当形態：単独
系列	保育の対象の理解に関する科目		
教科目	子どもの理解と援助		
授業の到達目標及びテーマ 1. 子ども一人一人の心身の発達や学びを把握することの意義について説明できる。 2. 子どもを理解するための基本的な考え方、具体的な方法について説明できる。 3. 子どもの理解に基づいた保育実践における援助と態度の基本について説明できる。			
授業の概要 子どもを援助する際、子どもの発達や学びの状態を十分に理解し、対応していくことが重要である。本授業では、子ども一人一人の発達や学びを把握する意義を理解した上で、子どもを理解するための基本的な考え方・視点、具体的な方法について学んでいく。そして、子どもの発達に応じた援助や特別な配慮を要する子どもへの援助など、子ども理解に基づく、実践に即した援助、態度の基本について考える。			
授業計画 第1回：保育における子ども理解の意義 第2回：子どもに対するかかわりと共感的理解 第3回：子どもの生活や遊び 第4回：保育の人的環境としての保育者と子どもの発達 第5回：子ども相互のかかわりと関係づくり 第6回：集団における経験と育ち 第7回：発達における葛藤やつまずき 第8回：保育の環境の理解と構成 第9回：環境の変化や移行 第10回：子ども理解のための観察・記録と省察・評価 第11回：子ども理解のための職員間の対話 第12回：子ども理解のための保護者との情報共有 第13回：発達の課題に応じた援助とかかわり 第14回：特別な配慮を要する子どもの理解と援助 第15回：発達の連続性と就学への支援 定期試験：筆記		授業時間外の学習(毎回1時間程度) ・教科書を使って授業を進めるので、予習しておく。 ・発展的な課題レポートの提出を求める。(2回程度) ・授業では、アクティブ・ラーニングを取り入れるので、自分の考えを述べられるように、日常から表現力を磨いておく。	
授業の方法 講義とグループワークを中心に授業をすすめる。小レポートをもとに討議し、講評する。			
テキスト 『共に育ち合う保育者をめざして』 金子智栄子(編著) ナカニシヤ出版 『保育者の力量を磨く—コンピテンス養成とストレス対処—』 金子智栄子(共著) ナカニシヤ出版			
参考書・参考資料等 授業において適宜プリントを配布する。			
学生に対する評価 本授業の到達目標については試験(70%)によって評価し、学習意欲・自発的授業参加についてはリアクション・ペーパーや課題(30%)によって総合的に評価する。 ※教員と学生間の成績評価に関する認識を統一するためにルーブリックを活用する。			
履修上の注意 授業終了時に、リアクション・ペーパー(「まとめと振り返り」用紙)の提出を求める。			
実務経験の有無	有	実務経験	スクールカウンセラー、臨床心理士
実務経験を活かした教育内容 受容と共感の重要性を理解できるように、事例をもとに授業を行う。			